



為石小学校の合言葉 「ためし 最高! ~地元で学び 地元を活かし 地元とともに行動する子ども~」



学校だより

○楽しく めあてをもって しっかり学ぶ
○正しく めあてを しっかり守る
○たくましく めあてに向かって しっかり鍛える



ためし



令和7年6月25日号 文責 上久木田 雄二

生きる形

大きな自然災害後の日本人の規律正しさは、数多くのSNSで取り上げられ拡散される賛辞を得ています。

日本を訪れる外国人観光客が年々増加しています。観光立国を目指す日本にとっては経済的にチャンスと見られています。大型観光船が寄港する長崎もまた、インバウンドによる景気への刺激が大きいと語られています。

様々な場面で多くの外国人が日本（日本人）の良さを次のように表現します。

時間を守ること

きちんと並んで順番を待つこと
ゴミを散らかさないこと
食べ物を大切にすること
公の場では騒がないこと
人には優しく接すること

ところで、主に中学校や高校の話ですが、校則の見直しが全国的に進んでいると聞きます。

多様性という言葉や子どもの権利条約のもと、自己選択の幅を広げようという流れと連動しており、究極には「校則不要論」まで至っています。

そもそも国には法律というきまりが多数存在していますから、その他のきまりは、できるだけ少ないほうがいいと思います。きまりが多いと息苦しさを感じるのは私も同じです。

では、未熟な子どもが通う小学校に、きまりが一切なかったとしたら、どうなるか考えたことがありますか。

学校が示す指針のもとに、すべてが「家庭の選択と決定と責任」に任されることになります。我が子の育ちに応じて、学習用具や持ち物を変化させる必要があります。持ち物の違いによるトラブルは、学校が関知できなくなります。

私は、校長としてより、初等教育に携わる者として、幼稚園や小学校のきまりは少なからず必要だと考えています。

前述しました外国人から称賛される日本人の良さは、家庭教育とともに初等学校教育によるところが大きいと思っているからです。

いくなれば、私たち初等教育関係者は、「生きる力」の源である「生きる形」を育てているという自負があるからです。加えて、家庭教育も同様な役割と責任があると信じています。

HPはこちら



二次元コード読み取り 「カラー版は、ホームページでご覧いただけます。」

